

学生が行く！ 土木のお仕事

相沢 圭俊 学生編集委員
三宅 翔太 学生編集委員

第4回 「大阪市」橋梁アセットマネジメント（人物編）

橋梁の維持管理をひもとく！

「取材協力者」中村 忠善氏、柚本 真介氏、中上 貴裕氏

大阪市 建設局道路部橋梁課

前号のプロジェクト編では、大阪市の橋梁アセットマネジメントの仕組みと、橋梁の定期点検の現場を取材、維持管理の現状をお伝えした。

今回は、大阪の橋梁を最前線で支えている若手技術者の方たちを取材。橋梁の維持管理の仕事の内容や、自治体技術職員の仕事や役割等についてお聞きした。

橋梁課のお仕事は？

8000本もの橋梁を抱える大阪府建設局道路部橋梁課。この橋梁課では約20名の方が働いている。インタビューに答えてくださったのは、若手技術者の柚本さんと中上さん、そして係長の中村さんの3名だ。

入庁11年目の柚本さんは、橋梁を含む道路施設の設計、計画立案や予算編成業務を経験され、現在は橋梁の維持管理・更新に関する全体計画のとりまとめと、個別橋梁の事業化に向けた計画を主に担当している。一方で入庁8年目の中上さんは入庁後5年間、企

画部門にて街路事業の計画立案業務等の経験をされ、現在は橋梁の架け替え設計や耐震補強設計の仕事をしており、これまでに10橋程度の設計を担当されてきたそうだ。

橋梁課の仕事は多岐に渡る。「橋梁設計からイベント関係まで、仕事の内容は日によっていろいろと変わります」とは、中村さんの話だ。

橋梁の設計をする日もあれば、住民や業者の方々への説明や打合せを行う日、現場に赴く日、ときには大阪府が開催する橋梁のイベントに携わる日もある。イベントでの広報活動の仕事について中村さんは、「屋外で行

う活動を通じて、自分のたちの仕事の内容をより多くの人に知ってもらおうことは、円滑に事業を行うためにも大切な仕事。特に大阪府は、市民の方々や産官学の方々など、工作上非常に多くの人びととの関わりがある」と語る。そのため、多くの人とコミュニケーションをとり、仕事について理解してもらうのも重要な仕事なのだ。

自治体技術職員の魅力とは？

大阪府で働くことを目指した理由

について伺うと、柚本さんは「自分が携わる仕事の計画から維持管理までを見ることができる職場で働きたいと思ったから」。中上さんは「大都市のまちづくりに主体的に関わることができる市役所の仕事に魅力を感じたから」とのこと。また、中村さんは「大阪府が地元で、昔からよく知っているまちだから」ということも理由として挙げていた。「自分の住んでいるまちが自分の仕事によってより良



写真1 橋梁課での仕事風景（写真手前が中上さん）



写真2 取材風景

中村 忠善さん(大阪市建設局道路部橋梁課)

NAKAMURA Tadayoshi

1971年生まれ。1995(平成7)年に大阪市立大学大学院工学研究科を卒業後、大阪役所に入庁。橋梁や地下駐車場などの設計や現場監督業務に携わり、現在に至る。41歳。



柚本 真介さん(大阪市建設局道路部橋梁課)

YUMOTO Shinsuke

1977年生まれ。2002(平成14)年に京都大学大学院工学研究科を卒業後、大阪役所に入庁。橋梁を含む道路施設の設計、計画立案や予算編成業務に携わり、現在に至る。36歳。



中上 貴裕さん(大阪市建設局道路部橋梁課)

NAKAUE Takahiro

1980年生まれ。2005(平成17)年に大阪大学大学院工学研究科を卒業後、大阪役所に入庁。街路事業の計画立案や予算編成業務、橋梁の設計業務に携わり、現在に至る。32歳。



くなる。これは、自治体技術職員ならではの魅力だと思いますよ」と、中村さんは語っていた。

なぜ自治体技術職員が必要なのか？

柚本さんは、「自治体の技術職員は、土木の専門的な話を、市民や関係者にわかりやすい言葉に翻訳し伝えることが重要な仕事だと思います」と語る。中村さんは「市民の方との接触はおそらくわれわれ自治体技術職員の方が最も多い。だからこそ、土木事業と市民との橋渡しができる技術者が必要」とも語った。

また、この役割を果たすためには、基礎知識が重要との話も。専門用語なら一言で済むことを、専門用語を使わずにかつわかりやすく説明するのは難しい。事業とそれに関する知識をよく理解していないとできないからだ。

市民との接点と土木の知識、翻訳家という役割はこの両方を持っている自治体技術職員でなければできない役割だ。「限られた人にしかできない役割だからこそ、誇りを持って働いています」と中村さんは語る。

COLUMN

学生へのメッセージ

柚本—学生の間にはいろいろな経験をしてください。絶対にプラスになります。また、自治体の仕事では大量の文章を読むので、本をたくさん読んで活字に触れているといいと思います。速読の訓練もオススメです。

中上—自治体技術職員は専門技術力のほかに、会話能力や文書作成能力が要求されます。自分が言いたいことをA4用紙1枚など、簡潔にまとめられる能力を身に着けると、仕事の効率がグンとアップします。

就職先については、絶対にこの企業やこの業界!というふうに、初めから自分の可能性を狭めないことです。学生のうちからいろいろな業界でアルバイトを行ったり、実際に働いている方々の考え方や生活設計などを見聞きしたりして、将来の自分の可能性を広げてほしいと思います。

土木技術者として働いてみて

実際に働いてみて嬉しかった点について伺ったところ、柚本さんは、「1年1年目の仕事で、市内の幹線道路に

オーバーパスを整備し、渋滞緩和を図る仕事に携わったのですが、実際に工事が完成して車が通り、計画通りに渋滞が緩和している様子を見た時は感動を覚えました。また、自分が携わる仕事が目に見える形で残るのも魅力」と語っていた。

また、中上さんは、「都市施設を計画・建設・管理運営する立場として、さまざまな専門技術者をコーディネート

ネットし成果をつくりあげる機会が多くあります。このような立場だからこそ、自分の発想が形として残る機会が多々あり、魅力的な仕事です」と語っていた。

取材を終えて

自治体技術職員の仕事というのは、橋梁課の仕事だけでも、学生の私たちの想像以上のいろいろなことを行う、非常に範囲の広いお仕事だということを感じた。

範囲の広いお仕事だからこそ、多様な知識・経験が重要になる。私も土木に限らず、もっといろいろなことに興味を持つようにしようと思った。